

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2011年7月30日発行 第54号

タイ・バンコク在住の西川会長から

このニュースレターが皆様のお手元に届くころには、タイに新しい首相が誕生していることでしょう。地震のニュースが鳴りをひそめてから、ここタイでは徐々に下院選挙への関心が高まってきました。ご存じのとおり、焦点は政権交代が起こるかどうかでした。首相はここ数年何度か変わっているものの、選挙が行われるのは3年7カ月ぶりとのこと。言われてみれば、ここ最近はクーデター等の選挙以外の方法で内閣が変わっていたのでした。タイ人にとってはようやく自分たちの手で政権が選べるといったところでしょうか、投票日が近づくにつれ、選挙の話題も増えていきました。

政局の動きについては、ここで述べることは避けませんが、私がタイの選挙のたびに感じるのは、有権者の関心の高さです。候補者の政策についての議論を聞くことはあまりありませんが、今回も投票するためのスケジュール調節についての話題は何度も耳にしました。投票日に合わせて帰省を計画している人、帰省するには遠すぎるので不在者投票の手続きを始めている人、週末の予定を聞いても選挙だからどこにも行かないと答える人など、特に若い人の中にも選挙に行くのは当たり前と考える人が多く、一概には言えませんが、日本の若い人とはずいぶん意識が違うのだなと感じさせられました。私は、投票日当日は大きな見本市のお手伝いをしていたのですが、スタッフが口ぐちに今年は選挙と重なったから、人出がいまいちだというようなことを話していたのが印象的です。事実、投票率は75%、最も高かったランブン県では88%を超えていたそうです。

さて、もうひとつ私がタイの選挙で面白いと思うのは、選挙ポスターです。ポスターといっても、人の背丈ほどもある立て看板で、候補者の写真はもちろん、キャッチフレーズ、スローガン、実現不可能と思える公約などが書かれていて、見ていて思わずクスッとしてしまうものもあり、非常に楽しめます。笑顔の候補者と名前だけの日本のポスターとは好対照です。今回は候補者ポスターとは別に動物をキャラクターにした投票ボイコットを呼びかけるポスターが出現し、日本のマスコミにも取り上げられていましたので、ご存じの方もいらっしゃるでしょう。こうしたポスターもまた選挙気分を盛り上げてくれます。

選挙の結果が出て、今のところ政権交代は静かに粛々と行われるだろうと見られています。多くの人々が期待と不安それぞれを心の中に抱いているのではと想像します。新政権には争いのない平和な国づくりを期待したいと思います。

西川 弘達

活動報告

～2011 年奨学金授与式報告～

報告者 松本 康裕

この報告書が皆様のお手元に届く頃にはタイの総選挙でプアタイ（タイのための意味）が勝利し選挙後の各種の動きが報道されているかと思いますが、今年の授与式はサッケオ県を7月2日にスタートし7月9日のマハサラカーム県までの11県で実施したため投票日である7月3日のスリン県で教育委員会が選挙への影響を心配して会場が確保できなくなりやむなく中止せざるを得なくなりましたが、急遽子供たちをプリラムとシーサケットへ振り分け出席できない子供へは送金で対応をする等の影響を受けましたが、子供たちには何とか奨学金を届ける事が出来ました。

今年は継続生徒へ「何か出来る事を用意してきて欲しい」旨の通知をしたため通常の授与式の式次第（委員長と松本の挨拶、生徒へ奨学金を手渡して一緒に写真を撮る）事に加え生徒たちの何人かに「出来る事」をやってもらう時間をとり、ギター持参で歌を歌う子供、手芸品や絵を持参した子供、英語や中国語でのスピーチを披露する子供等が出て、生徒たちの緊張が少しほぐれるきっかけになったようです（最初に松本がたわいのない一瞬芸をしてその後生徒たちに披露してもらいました）。



私が授与式へ参加するのも4回目となりましたが、奨学金を手渡すたびに年々子供たちの表情が生き生きとしてくるように感じられ「来てよかった」と実感します。しかし新規学生は依然として背の低さが目に付き（そのような体格になったのも）栄養状態を含めての貧困が影響しているように思われ、現在でも奨学金による支援の必要性を改めて実感した次第です。

今回特に印象に残ったのは、「金額は少ないですが・・・」との文言がほとんどの県の教育委員会の挨拶の中で語られた事です。私たちがこの奨学金をスタートした20年前と現在では物価水準や生活状況は大きく変化していますが奨学金の金額は変わっておらず、小中生2000パーツ、高校生3000パーツの金額がもつ意味も変わってきているように思います。物価水準にスライドさせて金額を変更する事が最良だとは思いますが、この20年という時間を考えると今後の支援金額の再検討もしていかなければならないと感じました。

なお授与式の会場で、生徒と教育委員会へタイ語で書かれた私たちキャンヘルプの「パンフレット」を手渡して、キャンの活動全体の紹介もすることが出来ました。

今年支援した奨学生の内訳

- | | | | |
|-----------|----------------|----------|----------------|
| ・サッケオ県 | … 22名 (内新規 4名) | ・プリラム県 | … 26名 (内新規 8名) |
| ・スリン県 | … 22名 (内新規 1名) | ・シーサケット県 | … 22名 (内新規 4名) |
| ・ヤソトーン県 | … 23名 (内新規 7名) | ・ムクダハーン県 | … 16名 (内新規 4名) |
| ・サコンナコン県 | … 21名 (内新規 3名) | ・ナコンパノム県 | … 20名 (内新規 4名) |
| ・カラシン県 | … 21名 (内新規 3名) | ・ロイエット県 | … 20名 (内新規 4名) |
| ・マハサラカーム県 | … 20名 (内新規 4名) | | |

合計 233名 (内新規 46名)

7月2日（サッケオ県）

サッケオ県は現在の教育委員長が赴任した当時は全国的にも学力が劣っていたが教育委員会や学校の努力の結果現在では優秀な成績を残すほどになり、課外活動の面でも活発な活動を継続できるようになったそうで、先生たちの意識の高さを示すものとして他県と比べて男子生徒への支援割合が約50%と多い（他の県は20～30%程度）事が、女生徒に比べ積極的に先生に寄っていかない男子生徒へも先生の目が行き届いているためだと感じました。

なお当日に2009年にワークキャンプを実施したバンタイサマッキー小学校を訪問しましたが、土曜の休みにもかかわらず皆さんの支援で建設した集会議場で美術の先生の指導の下に10人あまりの子供たちが絵を描いており、掃除等の手入れも行き届いて十分活用されている様子が見られて、支援してよかったと実感しました事をこの場を借りて報告します。

7月3日（プリラム県）

教育委員長が選挙管理委員もしており、その委員長の判断で投票日当日にもかかわらず午前中の授与式を実施する事が出来ました（タイの投票時間は8時～15時）。スリンからも4人の子供たちが出席しましたが、プリラムの教育委員会の方達も協力してくれたのでその子供たちへも無事奨学金を手渡す事が出来ました。授与式の挨拶の中で教育委員長の決断と担当者の協力に対してお礼を申し上げました。



7月4日（シーサケット県、ヤソトーン県）

シーサケット県ではスリンから参加した子供も含め（他県でもそうでしたが）和気藹々の雰囲気の中で授与式を実施する事が出来ました。

授与式終了後には一緒に写真を撮ってもいいですよとの「むさん」の案内があったせいか生徒と松本との一緒に写真を撮るを個別に撮りたい旨の申し出が多くあり生徒たちへの親近感を以前にも増して感じられました。

ヤソトーン県でも子供たちへ奨学金を手渡す時に「サワディーカップ、チューンカップ（こんにちわ、どうぞの意味）」の言葉をかけた時には一瞬子供の表情が緩むのが見て取れることが多く、私がへたくそなタイ語をしゃべってよかったと思いました。

なお、ムクダハーンへの移動の途中にロイエット県在住の会員である亀山氏宅に立ち寄った際、タイ人の奥様ともども大歓迎をいただいた上に90Km程離れているムクダハーンまで送っていただきましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

7月5日（ムクダハーン県）

朝会場へ行ったら教育委員会の方がたくさんおりテレビ局の取材も来ていたため何事かと聞いてみたらタイ赤十字から子供たちへ自転車を送る贈呈式を一緒にの会場であるためとの事で、時間配分がテレビ局の取材がしやすいように式次第も変更されて私たちの授与式の様子も一緒に（ついでだと思いますが）取材を受けました。会場には県の副知事もおいでになり赤十字からは10人も女性の制服姿で並ばれて大掛かりな式典になると思いましたが、赤十字のものは集合写真を撮るだけで挨拶や目録の贈呈等は一切なく何かあけなく終わってしまいました。



なお楽しみにしていた新規の生徒宅への訪問が中止になりちょっとがっかりしました。

7月6日（ナコンパノム県）

松本がタイ語をほとんどしゃべれないので教育委員会の方が英語での会話をされることがありますがいわゆる「タイ語なまり」で聞き取りにくい事が多いのです。しかしナコンパノムのピヤボン副委員長の英語は判りやすくて助かりました。

他県と同様に和やかな授与式の後で新規と継続の子供宅を2軒訪問しました。私も61歳になり近頃涙腺がゆるくなってきていますが説明を聞いているうちに2軒とも涙をこらえる時があり、「こういった子供にこそ奨学金が必要なんだ」と改めて実感し、子供たちとキャンを結んでくれた先生と教育委員会の方にお礼の気持ちを伝えました。

訪問したトアンちゃんの家は、生活の実情を知った先生を中心に寄付を募り、村人の労働奉仕も加わって建てられており、先生による家庭訪問の効果が現れた一例だと思いました。

なお、タイにおいては全国的に3年程前から先生に、全生徒宅への家庭訪問が毎年実施されるようになったため、従来にも増して生徒の家庭生活の状況把握が出来るようになったそうです。

7月7日（サコンナコン県）

全国的に「藍染の県として売り出す」運動が実施されていて教育委員会の副委員長も藍染の上着を着ており宿泊したホテルでも男性も女性も何人かが着用しているのを見かけた事もあり、県知事等の上層部が旗を振ると大きな動きになるというタイならではの風潮を感じました。

授与式後に生徒宅を2軒訪問しましたが2軒とも50年以上はたっていると思われる高床式の昔ながらの住居に住んでおり（一階部分に部屋を増築する等の）改築まで手が回らない状況を目の当たりにした事と、一人の子供は今日もらった奨学金で参考書（副教材）を買いに行くと話してくれ、その子供（女の子）の表情は状況ほど暗くなく何か「けなげさ」を感じてしまい、前日に続き思わず涙腺が緩んでしまった訪問でした。



7月8日（カラシン県、ロイエット県）

カラシン県の会場に同県とサコナコン県を中心に少数民族の「ブータイ族」が住んでおり、その民族衣装を着て参加した子供がいたため「その服はブータイ族の服ですか？」と声をかけたら「そうです」との答えがとても素直にあり、この子は民族の誇りをきちんと受け継いでいるんだなと思いつつ何だかうらやましくなりました。例年通りだそうですが授与式の最後に子供たちほぼ全員から枕や布等の贈り物があり何だか贈り物を強制しているように思えたので子供たちへは「ドナーの皆さんは手紙を一番欲しがっています」と伝え、教育委員会の副委員長には「お気持ちは嬉しいですが、来年からは受け取れない」旨を申し入れましたが「子供たちの気持ちなのだから受け取って欲しい」といわれてしまいました。「でも買ったものは受け取れません」と重ねて申し上げましたが、はたして来年は少しは減ってくれると良いのですが・・・

ロイエット県では2008年のWC実施校からも奨学生が参加しており、その影響もあってか多くの子供たちだけでなく先生までもが日本語で「こんにちは」「ありがとう」と声をかけてくれ今回の授与式実施県の中で飛びぬけて多くの日本語に接しとても親近感を感じました。そんな事もあったためか「来年また皆さんの素敵な顔に会いに来ます」とスピーチしてしまいました。でも子供たちの「出来る事」の披露するときの積極性が今ひとつ感じられず（当然だとは思いますが）地域や県民性の違いを感じました。

7月9日（マハサラカム県）

土曜日にもかかわらず授与式に関して協力いただいている教育委員会の方へお礼を述べた時に「先生や生徒から土曜日や日曜の休日にして欲しい旨の希望があるので・・・」と答えられました。教育委員会の方たちは国家公務員なので「休日出勤手当てや代休」がなく皆さんの意識の高さに改めて感謝しました。

今回の授与式最後の県なので和やかに終わりがたったのですが、「出来る事」をお願いしたところ誰も積極的に披露してくれる子供がおらず何人かにはお願いして歌を披露していただきましたが、サッケオ県やプリラム県に比べると積極性は無いものの顔つきは穏やかで私が声をかけるととても素敵な笑顔で答えてくれる面があり、どちらの子供も素敵に感じられました。



3月に起こった地震、津波そして原発事故にもかかわらず、皆様の寄付により今年もこのように無事奨学金授与式を行う事が出来ました。紙上ではありますが厚くお礼を申し上げます、ありがとうございました。

奨学生の子供たちは皆様からの返事を心待ちにしているようですので、子供たちから手紙が届きましたら、絵葉書でも結構ですのでお返事を頂きたく改めてお願い申し上げます。（タイ語への翻訳は事務局でいたしますので事務局宛にお送りください）



特 集

～すみれ基金奨学生からの手紙～

日本人のみなさん、こんにちは。僕に勉強のチャンスを支援してくださってありがとうございました。みなさんの力がなければ僕は両親の手伝いで田んぼや畑仕事をしたり、牛や水牛の世話をしているかもしれません。僕の家族は僕に進学させるお金がなく、勉強に必要なものはみんな高いです。

僕が好きな専門に勉強できることに大変嬉しいです。とてもラッキーだと思います。勉強したくても親が進学させるお金がないという人がたくさんいるからです。そんな子は親の手伝いをするしかないのです。僕の友達でもいます。そんな仕事はとても大変です。暑いし、雨に塗られるし、でも仕事をしないと食べるものがありません。勉強しない人に1日100-200パーツを得るためにはとても大変です。僕もそのような仕事をしたことがあります。とても疲れて、暑くて、大変でした。誰も大変な仕事に就きたくありません。いい仕事でいい給料をもらいたいです。勉強する方がいいです。暑くなくて楽です。

日本人のみなさんそしてすみれ基金に、僕に勉強する奨学金を支援してくださって感謝しています。ありがとうございます。



アナン・マヨ (Anan Mayoh)

サンカンペーン技術学校・専門学校 1 年生・電力専攻

私は ウィーラワン・カントンと申します。現在スコタイ専門学校 (Sukothai Vocational College) 短大 1 年生で、簿記学を勉強しています。すみれ基金から貧困学生のための奨学金を受けることができとても嬉しく、感謝しています。お亡くなりになったすみれさんという日本人は子供の教育に重要性を感じてくださいました。すみれ基金を受けることができ光栄に思います。奨学金を勉強に、社会貢献活動に活用します。すみれさんには面識がありませんでしたか、ご善心に変感謝し、すみれさんおよびキャンヘルプタイランド関係者のみなさんにお礼を申し上げます。ありがとうございます。



ウィーラワン・カントン (Weelawan Kantong)

私は ワイポット・シリウォンと申します。動物学専攻、短大 1 年生です。奨学金と社会貢献活動のための費用を支援してくださって大変嬉しく、光栄に思います。この奨学金は私にととても重要なものです。頂いた奨学金をできるだけ有効に、勉強のために使います。

最後に、私に支援してくださった方に大変感謝いたします。ありがとうございます。



ワイポット・シリウォン

私は Chutima Saisud と申します。今は Mahasarakam 大学工学部土木学科の3年生です。私に奨学金を支援してくださって大変嬉しく思います。貧困学生の教育の重要性を感じてくださってありがとうございます。一人の子の夢を叶えてくださって、私たち貧困家庭の子の気持ちを理解してくださって大変感謝しています。頂いた勉強のための奨学金と社会貢献活動のための奨学金を有効に使います。一所懸命勉強して成功できるように頑張ります。ドナー様にお返しできる一番いいものだと思います。社会貢献活動奨学金は、卒業した学校（専門学校）のボランティアキャンプに使いたいと思います。私たちの専攻は学生が少なく、活動費も少なかったです。この奨学金でもっといろんなことができるようになると思います。キャンプは毎年行うもので、県内の貧しい地域に行って地域開発キャンプをやります。私たちが勉強したことを実際に活用し、村人が微笑みを見せてくれます。いつもはほとんど労働ばかり提供しましたが、今年は資金の面も手伝うことができるようになるでしょう。キャンプは毎年の1月末に行われますので、その後に報告いたします。



本当に本当にありがとうございます。村人の代表として、私の母と姪っ子を代表して感謝の気持ちを申し上げます。この奨学金は私だけでなく、母と姪っ子も楽になります。私の努力や我慢強さを信じてくださってありがとうございます。今日よりいい将来に向かって頑張ります。必ず成功してお見せします。

奨学生 Chutima Saisud

尊敬なるドナー様、

尊敬なるドナー様、こんにちは。私に支援してくださって大変嬉しく、感激しています。この奨学金のお陰で私が大学に進学できるようになりました。教育学部の数学専攻です。自分の明るい将来が見えるようになり、先生になる日は必ず来ます。頂いた奨学金を勉強の道具、食費、寮費など、勉強に使います。奨学金を有効に使って、できるだけ知識や経験を積んでいきたいと思います。ドナー様のご期待を裏切るようなことはしません。

最後にドナー様とご家族の末永く健康であり、幸せであることをお祈りいたします。

尊敬をこめて、



Naresuan 大学教育学部 Jitlada Somsai

報告

～奨学金アンケートについて～

先日、奨学金ドナーの皆様に奨学金に関する報告資料についてアンケートをとらせていただきました。ご協力いただきありがとうございました。アンケートの結果をもとに奨学金ドナー様へお送りする奨学生の資料を運営委員会等で検討し、今後の活動に生かしたいと思っております。

報 告

～松本さんのコンケン長期滞在記録 Vol.1～

マイペンライ

とうとう来てしまいましたよ。

ワークキャンプへ初めて参加した時から心のどこかに芽生えた「タイへのあこがれ」が時間が経つと共にだんだん大きくなり、ワークキャンプへの参加だけでは満足できなくなってきて運営委員としてキャンのお手伝いをし始め（俗に言う“はまる”という事かもしれません）、ついには「タイで生活してみたい」と自分の中で憧れがだんだん具体的になってきて、生活はどんなスタイルでどこが良いかまた時期は何時なら可能かまた費用は幾ら位準備すれば・・・などと思いは募っていき、3年ほど前にはその思いを家族に打ち明けるまでに至ってしまったのです。

一旦その憧れを口に出すと、それは憧れであると共にその憧れが一人歩きし始めて、廻り廻って自分に帰ってきたときには、タイで生活する事が一種の既成事実であるかのようにも感じられ、僕には「行かなければ」という一種の義務感が出てくるようになりましたがそれは重いものではなくとても心地よい感覚でした。

と、まあいろんな経過をたどりながらも

行きたい → 行った → 生活したい → 生活できる → と言うことになり、昨年11月に、来てしまいました。

準備したものは、ロングステイビザの申請に必要なお金（300万円）とタイですること（ボランティア活動をする場所）だけで、一番大事な語学力は「現地で生活を始めれば何とかなるだろう」と気軽に考えていたのです。

住むところはコンケン、できるだけ自分でやる（業者に頼らない）、住む期間は3年、ただし準備したお金がなくなった時点で帰る、との大枠を決めただけで来たのだからバンコクに降り立ってからコンケンで住まいを探して決めるまでに2週間近くかかってしまったのです。

タイでのアパートや借家を探すのは、外国人相手の仲介業者はあったのですが日本のような普通の仲介業者が無いために自分の足で現地を回って探さなければならず、一部ネットに物件情報があるもののコンケンにおいては本当に一部でしかなく95%以上は建物に「貸します」の張り紙に大家さんの電話番号が書いてあるだけなのです。という事はタイ語が読めない、ほとんど話せない僕にとっては闇夜で100メートル先のろうそくのほのかな明かりに向かって歩いていくに等しい事だったので。でも日本に来ている留学生の友人が偶然コンケンに住んでいてその人は日本語が話せるときたのですから闇夜の真っ只中に何とも強力な味方が出現したのです、その人は仕事休みの貴重な1日を一緒に歩いてくれたのです（友達の友達のために動いてくれるその優しさに本当に助けられました）が、その日には希望物件（5000B程



度、タウンハウスという長屋、交通の便が良いところ) に近いものは見つからず、翌日からはその友人に教えてもらった「この近くにタウンハウスの借家は有りませんか？」の言葉と「借家」の文字をたよりに市内をあちこち歩き回ってはみたものの、学生が多いコンケンでは物件が多く出るのは3月の学年終了時の移動時期で、それ以外の月は物件が少なくそんなに簡単に見つかるものではなく、今の住まいを見つけたのも偶然としか言いようのないもので昼食のクイッティアオを食べたお店の横の路地の奥を歩いてみたら「借家」の文字を見つけたものでお店の人も知らなかった物件でした。

実際に中を見るまでがまたまた苦勞の連続で大まかな条件を聞いて契約に至るまで (実際にタイ語しか書いていない契約書を交わすことが出来たのです) にはまだまだいろんな事があったのですが、とにかくにもやーっと家賃5000Bでタウンハウスを見つけてなんとか住み始める事が出来たのでした。

現在はインターネットも使えず皆様とは手紙や電話でのやりとりだけしか出来ていないのですが「まあ快適」な生活をしています。日々の生活でも困る事や苦勞する事が普通で苦勞しないことがめずらしい毎日なのですが近所の人たちの助けを借りながら「マイペンライ」精神で過ごしています。

初めてタウンハウスで寝た夜からの事は、次の機会に書きたいと思います。

2011年4月 コンケンにて 松本 康裕

運営委員会

(2011年5月~2011年7月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5月28日	事務所	奨学金授与式について
運営委員会	6月25日	メール	運営委員の都合がつかず、メールで会議
運営委員会	7月23日	事務所	NT 通信編集会議 図書支援について

運営委員募集中!

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか?

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 8月27日(土) 13:00~ (事務所にて) です。

編集後記

▼最近の日本、何か変ですよ。政治の混乱ももちろんですが、経済も気候も天災も人災もいろいろなことが起こりすぎています。円高、株安、火山噴火、地震、原発事故、台風、ゲリラ豪雨、大混乱の政治、もう何が起っても恐くない感じです。でも、食物のセシウム汚染だけは何とかしてほしいです。また、いつかみたいにタイから大量に米を輸入しないといけないのでしょうか?タイ米は本当は美味しいです。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.54>

発行 キャンヘルプタイランド

発行人 西川 弘達

編集人 坂 茂樹

発行日 2011年7月30日

住所 〒450-0003

名古屋市中村区名駅南2-11-43

NPOステーション内

Tel & fax 052-566-5131

(OPEN: 毎週火、木・土曜の13~16時頃)

E-mail: canhelp@npo-jp.net

ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net